

## BOOK REVIEW 2

## 美しすぎる少女の乳房はなぜ大理石でできていないのか

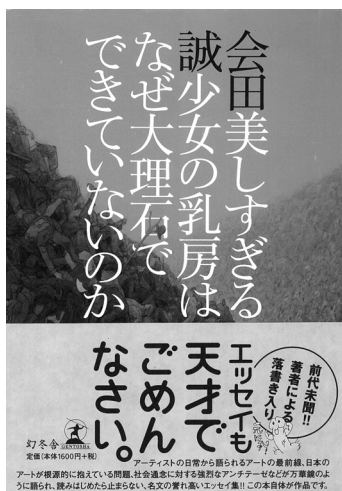
会田 誠 著

幻冬舎 ISBN-13: 978-4344022805 2012年11月発行

評者：桑波田 梨会（埼玉大学）

本書は会田の1冊目のエッセイ集である幻冬舎出版の「カリコリせんとや生まれけむ」同様、PR誌に書かれたエッセイとそれより以前に他の雑誌に載せたエッセイもまとめて載せたものである。つまりこの本は会田の若き頃から現在に至るまでの人間性を文章というかたちで捉えることができるものとなっている。エッセイは主に「北京でCM俳優をやった件」のように実際会田が仕事の関係で中国に滞在している際に中国の怪しいCMに俳優として出演したという日常のことを書いたものや「僕のみみっちい『ユリイカ!』」のような普段会田が思っていることを哲学的に語っているものがある。

本書の題名にもなっているエッセイ「美しすぎる少女の乳房はなぜ大理石でできていないのか」。このエッセイで会田は延々と乳房について語っている。タイトルを見る限りでは、「ロリータコンプレックス」的要素を全面に押し出した文章であるように思われる。しかし“乳房とは「無常」である”、“人間の女性の乳房にはもっと高次の存在意義がある。なかんずく少女の膨らみかけた乳房には、ただ単に性欲を喚起するような獣性を超えた、神々しいばかりの美を、動物ならぬ人間ならばそこに認めるはずである。”（以上、本書、2012年より）と、という言葉から分かるようにそこには女性美を追求して止まない会田のこだわり、つまりアーティスト性が見てとれるのである。他のエッセイも「美しすぎる少女の乳房はなぜ大理石でできていないのか」のように一見嫌がられそうな話題でおどけているように見せ、



アーティストとして滔々とそのこだわりについて語られている。

全体的な感想として、前作「カリコリせんとや生まれけむ」と同じようにあまり知られていない会田誠の芸術観、人生観がありありと分かるものとなっている。彼のアートに対する姿勢はわざとのおどけて見せて、真意を隠し、まるで道化のようだと勘違いされがちである。彼はアーティストと

いうより、パフォーマーに近いのかもしれない。しかしまた彼のこだわりはアーティストとしての姿を浮き彫りにしているように思われる。

こうした会田自身のエッセイにより、一見するとただ自分の趣味を露悪的に作品として表しているように見える会田の作品が飽くなき美への追求から発せられた作品として見られるようになる。露悪趣味的なみかけの作品は見る人にとって必ずしも好印象を与えるものではない。しかしそうした作品には会田の美意識が詰まっており、それが会田の本質を

表しているのである。これは本学会が掲げる真の意味での「バーチャル」に通じるものだと思う。故にこのエッセイ集で綴られた会田の言葉は、会田の作品を見る際に表面だけではなく本質を捉える能力を拡張するための道具であり、現実世界で誤解を招いてしまいがちな会田の作品の本質を普遍的に人へ伝えるものなのである。